

【部会名】 税務研究部会

【タイトル】 9月一泊研修会

【日時】 平成21年9月3日(木) PM3:00~4:30

【場所】 熱海 染井旅館

【講師】 公認会計士

齋藤 淳 氏

(東京税理士会江東東支部・経理部幹事)

【演題】 『 「 儲かってますか? 」と聞かれたら……』



【概要】

「儲かってますか?」と聞かれた時、返す相手によって色々な影響がでる。銀行に聞かれて、「儲かってますよ!」と言えば、「借入を少し返済してください」となるし、取引先に聞かれ同様に答えれば、「ならば少し値段下げてよ」となってしまう。

基本的な話だが、

会社の儲けである損益計算は、 当期純利益 = 収益 - 費用
税務上の儲けである所得計算は、 課税所得 = 益金 - 損金
収支計算上の儲けである資金計算 (キャッシュフロー) は、
収支差額 = 収入 - 支出

と整理できるが、意外とこれらの事を知らない企業化が多く、本人は「儲かっている」と判断していても、実際には代金回収に関心が無く、借入は増やし、金利・税負担の考えが殆ど無いため、利益が出ていない。このような企業家は優秀な企業家であったとしても、決して良い企業家とはいえないのである。

経営の意思決定の例として大型の設備投資をする場合、投資による節税、借入の返済、将来の金利の概念といった3つのことを考慮した上で決定をする必要がある。

従って、償却を何年に設定するのかを考え決定する事は、巨額な設備投資をする上で大変重要な要素といえる。当然その場合、税負担部分の法人税・消費税等も考慮した上での決定が重要である。

さらに、企業間取引をするような場合に、相手企業が「儲かっているかどうか」の判断をするにあたり、財務分析比率のみで判断するのではなく、必ず決算書を読む必要がある。

斎藤氏は最後に「2000年3月期から2002年3月期の間の企業会計において、税効果会計を契機にV字回復してニッサンは立ち直ったのである」と講演を結んだ。

